

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一緒に楽しくゆつくりと」を運営理念としている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎朝利用者の状況を確認し、運営理念を職員に徹底するとともに運営理念に沿うよう指示している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	「楽久園会まつり」等の施設行事の際に地域住民に対し運営理念等について説明している。また、広報「楽久園会だより」に運営理念等を掲載し、旧八千代町内に全戸配布するとともに入居者の家族に郵送している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	以前は、日常的にグループホームの近辺を散歩し、隣近所の人に気軽に声をかけていただいていたが、現在の入居者は、歩行困難な方が多く、散歩の回数も減り、隣近所の人と顔を合わせることも少なくなっている。	○	交流ホールの喫茶室を利用し、隣近所の人と交流する機会をもちたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所や地域が主催する行事(楽久園会まつり、夏祭り、運動会)等に地域の人と一緒に参加することで、交流を深めている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、地域の高齢者等の暮らしに役立つような取り組みは行っていない。	○	運営推進会議等で、事業所が地域の高齢者等の暮らしに役立つような取り組み、例えば地域住民が参加する認知症介護教室を開くなどの企画を話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、事業所のサービスを見直すことで、サービス向上につなげるとともに第三者評価については、より専門的な立場から運営者や職員では気付かなかった点を改善することに生かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で自己評価及び第三者評価について報告するとともに意見を伺い、サービス向上につなげている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町との連携は、現在のところ、市町担当課と運営推進会議以外には行っていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修は受けているが、現在のところ、必要性は少ないと思われる、活用していない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修を受けており、虐待が見過ごされないよう注意している。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約を結ぶ際には「重要事項説明書」に沿って十分説明を行うとともに契約を解約する際にも不安や疑問点がないように十分な説明をしている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	水分補給や入浴の際など日常的に利用者の意見や不満を聴いており、運営に反映させている。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	利用者の暮らし振りや健康状態、職員の異動については、面会の際や2ヶ月に1回の「家族への手紙」で報告しており、金銭管理についても、2ヶ月に1回、報告している。また、健康状態の急変の際は、その都度家族に報告している。		
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	家族等の意見、不満、苦情については、面会の際に聴き出しており、直接言いにくい場合は、玄関にご意見箱を設置し、ご意見カードを投函してもらうようにしている。また運営推進会議において、家族の代表者が意見を述べることで、それらを運営に反映させている。		
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	運営者は、日頃から職員と話す機会を設けており、運営に反映させている。		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応するため、その時々に応じて必要な職員を確保するよう努めている。		
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、職員の異動や離職をできるだけ最小限にするよう努力するとともにやむをえない場合には、認知症ケアに適した職員を配置するよう努めている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員を育成させるために、段階に応じた外部研修を受けさせるとともに、月に1回、職員全員を内部研修に参加させている。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とは、時々見学に行く程度で、定期的に交流する機会を持っていない。</p>	○	<p>地域の同業者と事業者連絡会をつくり、情報交換や勉強会をするなどサービスの質の向上につなげていきたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、日頃から職員の悩みを聴いている。また、併設のケアハウスの主任相談員が、職員の悩み相談にあっている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員の努力や勤務状態を把握し、それを給与にも反映するなど職員が向上心を持って働けるよう配慮している。</p>		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事業所を利用するまでに、家に訪問するなど本人から困っていること、不安なことを傾聴する機会をついている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた際や事業所を利用するまでに家に訪問するなど、家族等が困っていること、不安に思っていることをよく聴くよう努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今、何が必要なサービスなのかを判断し、対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、数時間とか1日とか試し利用をしたり、グループホームの通所介護を利用したりするなど、本人がグループホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう、家族と相談して対処している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの運営理念は「一緒に楽しくゆっくり」とであり、職員も利用者と一緒に楽しくゆっくりとすることで、時には利用者から教えてもらったり、励ましてもらったりしている。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族ができるだけ多く面会に来てもらったり、行事に参加してもらったりすることで、家族と一緒に利用者を支えいくような関係づくりに努力している。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの利用者と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築けるよう家族との連携を密にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所の把握に努めている。	○	大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、近況を伝える手紙等の支援をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう利用者の席の配置を工夫したり、利用者同士が協力してすることを企画したりするなど利用者同士が関わりあえる場づくりに心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、利用者や家族が必要とする場合は、関係を保つようにしている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めるとともに、認知症が進んで本人の意向を把握するのが困難な利用者については、家族に聴いたり、職員間で本人の意向を推量したりしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等について、家族や介護支援専門員等から情報収集している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を、家族等や職員間で総合的に把握するようにしている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で意見を出し合い、利用者が望むまた納得できる介護計画の作成に努力している。また、介護計画の実施にあたっては、家族に協力していただける部分は、できるだけ協力していただけるよう働きかけている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合は、利用者、家族と話し合い、現状に適した介護計画を作成している。	

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践などをケース記録に記録するとともに情報を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型居宅介護だけでなく、認知症対応型通所介護や短期利用共同生活介護も運営しており、その時々々の家族の要望に応じた支援をしている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて、民生委員や行政機関等の協力を得たり、小学校や中学校の似顔絵訪問や清掃ボランティアなどの協力を得ながら運営している。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族等の意向をよく聴き取り、必要があれば、地域の他のサービス事業者と連絡をとるなどの支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの職員が委嘱されているため、連携は得やすく、必要に応じて協働している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関はあるが、これまでのかかりつけ医との関係も大切にしており、利用者や家族が納得できる医療が受けられるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	グループホームの嘱託医は、認知症についても詳しい知識をもっておられ、職員が気軽に相談できる体制にある。また、近隣にも、認知症に詳しい医師もおられ、必要に応じて、受診している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所の看護師が、利用者の健康管理もしており、相談しながら、医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合も、病院側に様子を聞いており、早期に退院できるよう情報交換している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、事前に利用者や家族等と話をしている。また、具体的に重度化した場合は、家族等と頻りに話し合いを持ち、方針を決定している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者の希望をできるだけかなえるよう支援しているが、事業所の「できること・できないこと」も家族等に話をしている。またかかりつけ医とも連携を取りながら、終末期の支援をしている。	○	職員が終末期介護のあり方をもっと学んでいきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、グループホームからの退所先は併設の特別養護老人ホームがほとんどであり、十分な情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の意思及び人格の尊重を支援の基本姿勢としており、誇りやプライバシーを損ねるような言葉遣いをしないようにしている。また、個人情報については、守秘義務を基本としている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いや希望は、入浴の際や就寝前などの時間帯に聴き出すようにしており、利用者が納得した支援を心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの決まりや行事等はあるが、利用者 に無理強いするのではなく、一人ひとりのペースに合わせて、過ごしてもらっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者一人ひとりの希望する身だしなみやおしゃれを大切に支援している。また、理容・美容についても本人の希望する店に行っている。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせて、食事の準備、後片付けをしていただいているが、テーブル拭き、配膳・下膳などにとどまっている。	○	利用者に盛付け、食器の後片付けなども手伝っていただくことで、食事の楽しさを広げていきたい。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品については、利用者の状態や力に応じて、本人の好きな飲み物やおやつと一緒に買いに行くなど、日常的に楽しんでいただいている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者のおむつ使用はできるだけさげ、排泄パターンを排泄記録等で知った上で、便器で排泄ができるよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は決めており、一人の利用者は週3回の入浴となっている。利用者の意思は、入浴の時間帯の中で、入浴時間を変更する程度となっている。	○	毎日入浴など利用者の希望に沿った入浴ができるよう業務体制を見直したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ、昼夜逆転にならない程度の昼寝や朝やや遅くまでの睡眠など自由に眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在の利用者の力に応じて、家事の手伝い(洗濯物干し・たたみ、掃除、テーブル拭きなど)の役割や買い物、読書、散歩、各種クラブ活動(書道、社交ダンス、陶芸、絵手紙など)の楽しみごとの支援をしている。		


項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に応じて、お金を所持してもらい、買い物などでお金を使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、グループホーム近辺の散歩や買い物などの外出の支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	秋のレクリエーションとして、水族館、宝塚歌劇、淡路島、姫路城など日帰りで行楽に行っている。その際は、できるだけ家族にも参加していただくよう、呼びかけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話や手紙のやり取りなど支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人など利用者の馴染みの人たちの面会も多く、気軽に訪問いただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修で、全職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を学んでおり、身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵を掛けることの弊害は理解しているが、グループホームが急な坂道に面した土地に立っており、職員の目が行き届かない場合は、玄関に鍵を掛けている。	○	職員が常に利用者の動向に注意を払って仕事をする意識を浸透させ、日中玄関に鍵を掛ける時間を少なくしていきたい。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子については、常に気をつけており、職員間でも情報交換や確認の声掛けをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な薬、洗剤、包丁などの物品については、原則、一律保管・管理しているが、利用者が使用する際は、一人ひとりの状態に応じて使用していただいている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態は、職員が把握しており、転倒、窒息、誤薬、行方不明等の恐れのある利用者の状態に合わせて、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は過去受けているが、定期的に行っていない。	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の災害時の利用者の非難は、年数回を行っており、そのうち1回は地元の消防団と合同の訓練を行っている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	認知症が進むと、異食、誤飲、平衡感覚喪失による転倒、行方不明など様々な部分でリスクが発生してくる。しかし、車椅子のベルトによる抑制や必要以上に注意が必要な物品を管理したり、グループホームに閉じ込めることなどしない暮らしを実践し、家族にも理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとりの体調の変化や異変に気付いた際は、看護師に連絡するなど職員間で情報共有し、対応している。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の目的や副作用等については、ほぼ理解している。特に新しく処方された薬については、症状の変化に注意を払っている。	○	薬の目的や副作用、用法や用量について理解が深いのは、看護師のみであり、全職員が理解を深めたい。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の利用者については、下剤に頼っている部分が大いだが、できるだけ自然排便できるよう、水分補給に注意し、繊維質の多い食品を多く摂取してもらい、体を動かすように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔保持については、これまでの生活習慣に合わせ、利用者の力に応じた支援をしているが、基本的には、朝及び就寝前に支援をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量については、十分注意しており、食事摂取量が少ない利用者については、栄養補助食品(MA7等)を摂取いただいている。		

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、それに基づいて予防や対応をしている。また、感染症対策委員会があり、その時期の状況に応じて、流行している感染症に対する予防や対応の仕方の指示があり、実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の衛生管理には、毎日消毒等を徹底し、新鮮で安全な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には信楽焼きのためきや季節毎の花々を植え、親しみやすくしており、スロープを配置して、車椅子での出入りができるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルには季節ごとの花を、廊下には観葉植物を飾るようにし、直射日光が当たる場所はカーテン等で調節している。また、テレビやCDの音などは音が大きすぎないようにし、エアコンや加湿器などで温湿度の調節も行い、居心地の良い空間を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間である居間には、ソファーや掘りごたつも配置し、時には独りになれたり、一緒に団欒できる空間も設定している。		

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、今まで使い慣れたベッドや家具などを持ち込めるスペースがあり、家族にも協力していただくよう働きかけているが、使い慣れた家具などを持ち込む家族は少ない。</p>	<p>○</p>	<p>リロケーションダメージを少なくするためにも、今まで使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、利用者が居心地よく過ごしてもらうように、家族にもっと働きかけていきたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室には、温湿度計を設置しており、エアコン等で調節している。また、居室に異臭がこもらないよう換気には気をつけている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関の出入りや居室からベランダに出る部分は、段差を少なくしバリアフリーとし、廊下、浴室、便所には適宜、手すりをつけ、居間の和室は、上がり降りができやすいよう、座面をやや低く設定するなど、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の入口には、それぞれ名札や暖簾をかけるなど自室がわかるように工夫し、洗面所等の蛇口は自動水栓、居室の入口や便所は自動照明にしており、混乱や失敗を防いでいる。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>居室からベランダに自由に出入りができるようになっており、散策したり、ベランダのプランターの草花を楽しんでいる。また、ベランダに長椅子も設置し、日光浴も行っている。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の健康管理には、十分気をつけており、少し体調を崩されたときは、こまめに近くの医療機関に受診し、早めの対応をしている。また、法人全体で様々なレクリエーションを用意しており、陶芸、社交ダンス、絵手紙、音楽療法等ボランティアの助けを借りながら利用者の希望に応じて参加していただいている。一方で、計算ドリル、合唱、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙等、認知症の進行の緩和が期待できるプログラムを日々行っている。